

クラブ活動の思い出

8期生 中村 寿幸

まずは、創立30周年おめでとうございます。私の高校生活を振り返るとクラブ活動が強く印象に残っています。当時の東大津高校は、校則等が厳しく厳格なイメージを持たれている学校でしたが、私が所属していた軟式テニス（ソフトテニス）部では入部したその日から上級生、下級生の隔たり無く練習ができ、部員全員が主体的に練習に参加できる自由

な環境の下、私にとっては本当に充実した高校生活を過ごすことができました。早いもので卒業後20年以上経ち、あの頃が懐かしく思い出されます。また、当時のクラブ顧問の竹内先生、勝見先生、先輩、同期、後輩の皆さんそして東大津高校には今でも感謝しております。

（中村さんは、現役時代は、インターハイ、国体で活躍されました。）

8期生

12期生

高校時代を一言で表現すると「勉強地獄」である。「勉強した」というより、「勉強させられた」と言う方が正確だろう。とにかく宿題とテストが多かった。英語の「マラソンテスト」や古典の「問答無用政策」といったサバイバルテスト、定期考査がない月に実施される「実力養成テスト」、「実力確認テスト」など

と無理矢理（？）名前を付けた実力テスト。SHR前の時間まで

高校時代の思い出

12期生 南田 智美（奥村）

使って小テストも行われた。テストや予習に追われる毎日だった。正直言って当時は辛かった。先生が恨めしかった。早く卒業して、束縛から解放されたかった。卒業記念品（通用門のレリーフ）のタイトルを決めるとき、「自由」と「飛翔」が候補になっていたのは、多くの生徒がそう思っていた表れだろう。

しかし、卒業してから気付くものだが、受験をあまり意識していない1、2年生のころはテストと

祝 創立30周年



8期生より、修学旅行から研修旅行へ名称が変わりました。

在職時の思い出



旧職員
（名誉会員）
笹川 重雄

みなさんお久しぶりです。お元気でしょうか。私は昭和54（1979）年度（昭和61（1986）年度の8年間在職しておりました。ちょうど5期生の入学と共に転入し担任を持ち、10期生を卒業させて転出しました。当時、30歳代でしたので随分と未

成熟な面もあり、また生来の「不常識」さのため授業においても業務においても先生方を始め生徒諸君に色々迷惑をおかけしたことがお詫びします。まあ「不常識」さを変わっているが面白かったと言って慰めてくれる方に会うと少しは気が楽になります。

ところで、山岳部創生期の皆さんはどうしてますか。体験は宝です。それぞれ今は忙しくて振り返り、難しいと思いますが、今後思い出した時には寄り集まって下さい。私も最近山行にご無沙汰ですが田上山の近くを通りますとホームグラウンドとして活動したことを懐かしき思い出します。

（現在、笹川先生は、彦根翔陽高校の校長先生としてご活躍です。）



に、今は教師として育ててもらっている。東大津高校に転動してから姓が変わり、母となった。人生の大きな選択、変化があるとき、いつも母のように私を見守ってくれている東大津高校は、私にとって文字通り母校なのだ。これから母である学校に親孝行し、恩返しできるよう、OBとしても、教師としても努力していきたい。